/ エ くは、大学時代にアメリカンフットボー ルをやっていました。33番がぼくです。 大学2年のリーグ戦の2週間前に、膝を痛めてし まい、そこからずっと控えでした。それまでにも 怪我が多かったので選手としての信頼を失った んでしょう。そこに悔しさはあったんだけど、 じゃあ自分にできることってなんだろうって。い つ出番が来てもいいように、トレーニングの方法 を工夫したり、怪我をカバーするテーピングを学 んだり、できることをしていました。思うような 選手にはなれなくても、その状況でできること をやっていこうと行動できた経験は、今の自分 の考え方につながっています。今ここにあるも の、環境で、少しでもよくなるようにしようという 態度や思考は、きっといろんなことにつながって くんじゃないでしょうか。ちょっと造形遊びにも 似ていますよね。

学生のとんちクイズ「大阪城をつくった のは誰でしょう?」「豊臣秀吉」「ちがい まーす、大工さんです」を連想するというと、作 者に失礼でしょうか。この小説の主人公は、織 田信長に仕えた、鉄砲技師です。この時代の小 説だったら織田信長を代表とする武士が主役で すが、山本兼一さんの小説には「つくる人」を主 人公にしているものが多く、そこが魅力です。 安土城をつくった大工、銘刀虎徹を打った刀鍛 冶、歴史の中では裏方だと思われている人たち です。彼らの「つくりたいものをつくる」という思 いが執念のように描かれます。必要な材料や方 法を探し求め、あるものを使い、知恵を絞って なんとかつくってやろうという生々しいプロセス を、わくわくしながら読み進むことができます。



易 危 33

义

I

の

先

生

の

そ の

ま

わ

ŋ



休日はお気に入りの 自転車で近所の公園へ

学習指導要領 資質・能力の三つの柱

思考力、判断力、表現力等ってなんだ?①



思いついた!(p.02)

ポジティブな問題解決 (p.07)

今号は主に、「思考力、判断力、表現力等」のうち、発想や構想についてのお話でした。 思い付き、考えていく力は、意味や価値をつくりだしていく過程で育まれていきます。しかし、 自分にとっての意味や価値を、先生が教えることはできません。子どもたち自身が、形や色、 友だちの活動などから、想像を膨らませ、「こうしたい」を思い付き、「どうやってやろう」 と考え、自分のゴールを決めていく。そのようなポジティブな問題解決を通して、子ども たちの思考力、判断力、表現力等は育まれていくのではないでしょうか。

想像を創造へつなげるもの、それが、「発想や構想」なのです。

造形的な見方・考え方 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをも

図画工作の目標(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、 作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(平成 29 年 6 月 小学校学習指導要領解説図画工作編より)

表紙 『ぬのをつないでいくと』(3年生)

布をつなぎながら、思い付いたことを試す造形遊びの題材。どこと どこをつなごうか、次は何色をつなごうか、どんな場所につなごうか、 友だちと話し合いながら、思い付き、考え、自分たちの世界をつくり だしている瞬間。

クリエイティブディレクター:池田晶紀(ゆかい) アートディレクター:畑ユリエ 表紙写真: 伊藤萌(ゆかい) フォトグラファー:川瀬一絵、伊藤萌(ゆかい) イラストレーション:やまねりょうこ(ゆかい)

図工のみかた 04号

日文教育資料「図画工作] 平成30年(2018年)3月31日発行 編集·発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33386

http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14

TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F•B TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690



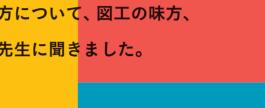


図工の時間、

「いいこと考えた!」と声を上げる子どもがいます。 何度も試し、納得いくまで考えている子どもがいます。

想像を創造へつなげるとき、 子どもたちは、 どのような力を育んでいるのでしょうか。

学習指導要領のキーワードと、 図工の見方について、図工の味方、 西尾正寛先生に聞きました。



語り手 (畿央大学教授)









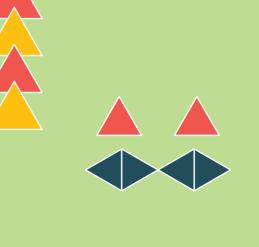
子どもって、その場にあるものからどんどん発想が飛び出してきます よね。公園に行って、遊び道具がなくたって、小枝を集めて「やきそば できた!」、並べて「道になった!」とか言ってね。造形的な思考の入り 口をすぐ見付けちゃう。子どもは発想名人なんです。形や色とイメージ をつなげて、発想していく力をもともともっている。

図工の評価は難しいってよく聞くけど、ぼくはすごくシンプルだと思っ ています。自分のしたいことを見付けていたらOK。木切れの造形遊び なら、並べたり積んだり、したいことを見付けてそれを形にしようとして いれば、もう発想や構想をしてるってことじゃないですか。だって「やき そばって発想はよくて、道って発想は悪い」ってことはないでしょ。

そもそも図工では自分にとっての意味や価値を創造することが大切 だけど、それ自体は教えられない。教えるというのは、ゴールに先生が いて、子どもがスタートからどこまで近づけたか距離を測る感じ。そう ではなくて、先生は、子どもが自分でゴールを決められるように、材料 や場をしっかり準備しておいて、あとは活動のスタート地点に立って、 「Aさんはこっち、Bさんはあっちやな」ってずっと見守っている。転んだ 子がいたら駆け寄って「どうしたの?」って声をかけて支える。そんなイ メージ。それぞれのゴールに向かう子どもたちを見て、先生自身が「そ ういう方向もあるんや!」と一緒に楽しめたら、すごくいい授業ですよ ね。それこそ、子どもが「先生、これはしてもいいんですか」って聞いて きたら、「あぁ、ぼくの授業、アカンかってんなあ」って落ち込みます。

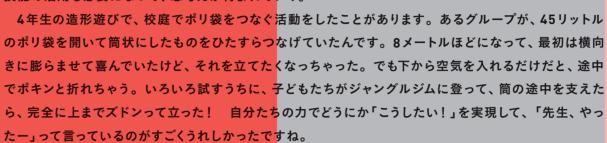






にしお・まさひろ 1961年、大阪府生まれ。中学校教員とし て8年、小学校教員として13年間勤務を 経て、現在畿央大学教育学部現代教育 学科教授、同大学現代教育研究所所長。 日本教育美術連盟事務局長、幼少年美 術教育研究会代表などを担当。日本文教 出版小学校図画工作教科書の著者の一 人として美術教育の発展に努める。

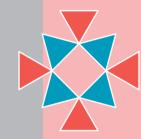
図工って、問題解決型学習のように思考している場 面があります。でも「わからない、できない」課題を解 決していくのではなく、図工は「こうしたい」を実現して いく。夢実現型学習ってどうでしょう。材料との出合い とか、環境に身を置くことから、自分がしたいことを思 い付いて、追求していく。解決というより追求。それが 図工の面白いところだと思います。「こうしたい!」って 発想したら、当然「どうやるの?」と構想するし、知識や 技能の活用も必要になって、思考力が育まれていく。



発想というのは、芽みたいなものです。先生の役割は、その芽が出やすいよう、題材名や導入の提案 方法を工夫したり、どんどんイメージが湧き出てくるような材料や環境を整えたりすることだと思います。 **そして、その芽をどうやって伸ばそうかと考える**子どもたちを見て、どうしても困っている子どもがいたら 精一杯支える。そういうことがすごく大切なんじゃないでしょうか。









図工って、「共有」がキーワードだと思っています。見たり対話したりし て共有することは、学びの中でとても大切なんです。学校生活では集団 でという考えはあるのに、図工では個別に活動しようとしすぎている場合 もあるんじゃないかな。

例えば、共有=まねるってことでもあって、友だちの作品の形や色を捉 えてそれをなぞっているうちに、ふっと自分の中で新しい発想が出てき て、独自の作品になる。自分なりの発想をつかむために、そういう時間が 必要なこともあるんです。まねるのも学び方の一つですよね。授業の導 入でも、何か思い付いた子が、みんなの前で材料を使いながら「こうした」 らめっちゃ面白くなる!」って発想を共有すると、それを見て「あ~!」って 思い付く子が出てきますよね。

活動中も共有してますよね。砂場での活動で、最初は別々だったのに、 気が付くと何人か集まってつくってることがよくある。そういうときって、 一緒にやったほうがより自分たちの楽しいことができそうって思ってるん だと。心の中のわくわく感というか「もっと大人数でやったほうが面白そう だ」っていうのがあって。見たり対話したりしながら、お互いの発想に影

響されてもっとイメージが湧き出てくる。絵をかくと きも、どんな活動だってそう。大人だって、誰かと対

話して発想が広がると思います。

ぼくは図工そのものも共有したい。ものをつくる という方法でも、考え方の本質でもいい、違う分野 の人とも図工でつながっていきたいと思っています。









